

Ashoka's
**youth
venture**
DREAM IT. DO IT.



ASHOKA

Japan

J.P.Morgan



個人も社会も急激に変化している現代で、その変化のもたらす影響は計り知れない。「変えないこと」が「変えること」よりも危険であるという時代が到来した。「成熟社会の若者の無気力」から「地球温暖化」まで様々な綻びが増え続け、解決策が追いついていけないと私たちひとりひとりが感じている。15年後の日本（あるいは世界）の成功、不成功を決める要素は何だろうか？答えは、どれだけのチェンジメーカーがいるかということに他ならない。

今から15年後に社会の将来を左右する重要な役割を担うためには、若い人々は今すぐにこのスキルを身につける準備を始めなくてはならない。チェンジメーカーのスキルがなければ国家も組織も個人も競争力を失っていくのは明らかだ。

アショカは世界の第一線の社会起業家の連携である。彼らの半分以上が、アショカ支援が入って5年以内に国の政策に変革を及ぼしている。彼らのほとんどが10代で何らかの新しい事を始めている。何かを変えるためには、若いうちから始めなくてはならない。チェンジメーカーは理論ではなく実際の行動のみから学ぶことができる。だから、私たちは世界中の若者ひとり残らずにユースベンチャーを浸透させることを目指している。

The central strategic reality every person and society faces today is that the rate of change is accelerating exponentially. The consequences are dramatic. Not changing has become more dangerous than changing: Many feel that the problems -- be it unmotivated youth in an aging society or climate change -- are outrunning the solutions. What will define Japan's -- or any country's -- success in fifteen years? The proportion of the population who are changemakers, who love solving the problems.

If a country's young people do not develop these skills now, they will not have what it takes to be real contributors in fifteen years. They will not be valued, and the country and its institutions will not be able to compete. Ashoka is the association of the world's leading social entrepreneurs. Over half those it helps launch have changed national policy within five years. Virtually all of them started something in their teens. The only way to be a player in life is for young people to be players now. It is impossible to master changemaking in theory. Ashoka's Youth Venture ensures every young person has that chance.

ビル・ドレイトン
アショカ 代表

Bill Drayton
Ashoka CEO

金融業界のリーダーとして、J.P.モルガンは社会的責任を当社の企業文化の基礎をなすものと考え、未来への責任を果たすよう努めております。当社は、世界中の地域社会において、持続可能かつ意義のある前向きな変化を支援していきたいと考えています。

当社の日本における最初の業務も、1924年、関東大震災の復興資金調達のために日本政府をお手伝いするという社会的意義のあるものでした。今日、当社の提供する商品・サービスは、日本をはじめ世界中の経済活動を維持し、社会基盤を整備し、企業と市場の成長を助けるものです。

去年、JPモルガン・チェース・ファンデーションは、世界中の社会起業家を支援するアショカに対して、日本での事業立ち上げのための資金を寄付しました。当社の寄付は、若者による社会変革のプロジェクトを支援するアショカの「ユースベンチャー」のプログラムに活用されています。若き「チェンジメーカー」の皆さんが、プログラムを通してスキルと自信を身に付け、日本の将来を担う力強く想像力豊かなリーダーとして育っていくことを願っています。

As a leader in financial services, J.P. Morgan has always seen corporate responsibility as a key underpinning to our culture, and we take our role in leading the way forward seriously. We strive to be a catalyst for meaningful, positive and sustainable change within our communities worldwide.

In fact, our first operation in Japan was to help the Japanese government finance reconstruction in 1924 after the Great Kanto Earthquake. Today, the products and services we provide are helping to sustain the economy, finance infrastructure, and support the growth of companies and markets in Japan and across the globe.

Last year the JPMorgan Chase Foundation became the first donor to help launch the Japan operations of Ashoka, a pioneer in fostering social entrepreneurship around the world. Our grant supports Ashoka's Youth Venture program, which encourages young people to create and implement their own social change projects. We hope that the skills and confidence these young change makers develop will help them become the strong and imaginative leaders of Japan's future.

クリストファー・ハーヴィー
シニア・カントリー・オフィサー
日本におけるJ.P.モルガン



A handwritten signature in black ink, appearing to read 'Christopher Harvey', written in a cursive style.

Christopher Harvey
Senior Country Officer
J.P. Morgan in Japan

アショカ+ユース・ベンチャー+日本

世界にある問題を解決／軽減するにはどうしたら良いか？

人種間の差別、極端な貧富の差、汚れた空気や水、先進国のやる気を失った若者たち。「そのひとつひとつに取り組んでいるのでは、巨大なインパクトをもった解決にはならない。最小の労力と資金で最大の効果を生む方法はないだろうか？」

インドの極端な貧困を目の前にした19歳のビル・ドレイトンの頭に浮かんだのがこの問いであり、その答えが1980年に立ち上がったアショカの活動である。「若造の僕に何ができただろう？僕があくまでもこだわるのはスケールだ。ひとつの貧村や数人の命を救うだけでは根本的な解決にはならない。大きな変革のために、槌作用(レバレッジ)を効かせるしかないと考えた」とドレイトンは振り返る。

大きな社会変革に繋がるポテンシャルを秘めたビジョンとスキルと志を持つ人を探し出し、その人のビジョン達成を加速化させるシステムを創り始めた。いわば変革に槌作用を効かせる活動だ。以来、30年の時間が流れた。この30年の間に選ばれ、ビジョンの加速化に対してアショカの支援を受けた人たち(フェロウとよばれる)は、70カ国で2700人を超える。選ばれたフェロウたちは確かなビジョンやスキルがあるだけではなく倫理観と誠実さを備えている極めて希有な人たちだ。約1000万人に1人の割合で選ばれている。「倫理観と誠実さが無い人は、社会を根本から変えるほどの影響を及ぼすことができない」とドレイトンは語る。フェロウのうち56%はアショカの支援が入ってから5年以内に活動する国の政策を変えるまでの影響力を発揮し、96%が他の組織に模倣されることによって変革が倍々に広がっている。

フェロウを選ぶシステムが世界中に広がり、発足から15年ほど経った頃、ドレイトンは、フェロウたちが幼少期から子供なりのイノベーションを起こした経験があるという共通点を持つことに気づいた。だとすれば、社会変革のアイデアを持つ若者たちを支援するシステムを創ったらどうか――。子供のときに変革のプロセスを経験すれば一生変革を続けるに違いない。こういったプレーヤーが増えればアショカの目指す「Everyone-a-Changemaker:みんながチェンジメーカー」という世界の到来はますます現実味を帯びてくる。この構想がドレイトンの頭に浮かんでからわずか2週間後、ユース・ベンチャーのプログラムは生まれた。

アショカが目指す社会は、お任せではなく自分たちの住む社会を自分自身で向上させることができると信じ、行動に移す情熱を秘める人たちが支える社会。ユース・ベンチャーは、そういったチェンジメーカーとしてのポテンシャルを持つ若者のビジョン実現をサポートする。ユース・ベンチャーは従来の「教育」とは意を異にする。通常の教育では一般的な、教える側と教えられる側の間にある境界線を溶かし、参加した皆が刺激し合い、学び合う。すると溶け合ったエネルギーが意識の変化を起こし、真新しい知恵が生まれる。そうして社会は変わっていく。日本は変わらなくてはならない。生きる力を持つ若者を育て、社会を変えて行く、というのが私たちの解決策だ。ユース・ベンチャーが果たす役割は計り知れない。

渡邊 奈々
アショカ・シニア・アドバイザー

ASHOKA + YOUTH VENTURE + JAPAN

Conflict between nations. The great gap between poor and rich countries. Polluted air and water. Unmotivated youth in aging societies. The list goes on and on, but each issue provokes the same question: How can we solve this problem?

This is what Bill Drayton wondered when as a young man he came face to face with extreme poverty in India. In 1980, he launched Ashoka as a means of leveraging the power of extraordinary individuals who have the insight and drive to cause system-change as they address the pressing problems of their world. Ashoka locates, identifies, and supports potential change makers to help their vision become a reality. Since 1980, Ashoka has selected over 2,700 “fellows”—rare people equipped with the vision and skills to identify solutions to common problems, and the integrity and ethical fiber to stay with their cause and put their solutions into action. Their solutions are scalable and have the potential to impact large numbers of people.

By the early 1990s, Drayton noticed something interesting about the Ashoka fellows: all of them had experience creating innovation at a young age. “How about then creating a system to assist youth with their ideas? Once you create innovation as a young person, the chances are you will be innovative the rest of your life.” On the basis of this insight, Ashoka’s Youth Venture program was created in 1996.

Youth Venture is a different way of engaging young people. Unlike traditional forms of education or mentoring, which divide people into “teachers” and “students” who have unequal roles and status in the community, Youth Venture brings together adults and youth as peers who have something to learn from each other. The result is social change that could never happen without a shared vision of the community, not limited by convention and open to the new wisdom that emerges when we think differently.

Japan is thirsty for change and hungry for new ideas. By supporting young changemakers, Youth Venture will help mold a forward-looking vision to take Japan into the next decades.

Nana Watanabe
Ashoka Senior Advisor

YOUTH VENTURERS in JAPAN

日本初のユース・ベンチャーの
プログラム

ユース・ベンチャーは1996年アメリカで発足して
から17カ国に広がり、2010年18カ国目として
日本が加わりました★。

立ち上げに先だち私たちは、JPモルガン・チェース・
ファンデーションの支援を得て、5月から7月につけて
試験的プログラムを行いました。東京と関西に住む
15歳～20歳の若者200人にリーチし、プレゼン
テーションでは、広告、出版、金融、アニメーション、
ビジネス・コンサルティングなどの業界の第一線で
活躍する社会人のパネリストと若者たちが一体とな
って彼らの気になる社会の問題と解決策をプレ
イン・ストームしました。成熟した日本社会の問題と
して浮き彫りになったのが、コミュニケーションの
不足とその結果としての孤独や急速に増えつつあ
る移民に関するインフラなどでした。パイロットで
発表されたアイデアのうち7件と海外でこれまで
に発足したプロジェクトをここに紹介します。

- ★ 1996 アメリカ
- 2006 メキシコ ブラジル ドイツ フランス
アルゼンチン スペイン
- 2007 インド チリ 南アフリカ タイ ベルギー
カナダ
- 2008 コスタリカ エルサルバドル イスラエル
- 2009 オランダ
- 2010 日本
5～7月 パイロット(試験的プログラム)

「外国人高校生の
しごと案内」

オトゴンバートル
ニャムチリン
Otgombaatar
Nyamtseren
ムンバト
ダイリマー

Munkhbat Dairimaa



(ニャムカ) 私は5年前両親と一緒にモンゴルから
日本に移住しました。学費と生活費を稼がなくては
ならないので学校が終わってから深夜までアル
バイトしています。でも日本では私のような外国人
の学生になかなかバイト先が見つかりません。日本
語が良く出来ないからと断られますが、本当の理由
は言語ではなくて偏見だと思うのです。バイト先の
コンビニや店舗にアンケートをとって私たちが役
立つことを伝え、同時に外国人学生にも遅刻しない
とか、仕事中はお喋りしないなど日本の習慣のガイ
ドラインを教えるプログラムを始めます。お互いを良く
知れば偏見がなくなると思います。

(Nyamka) My parents and I came to Japan from
Mongolia five years ago. Now Dairi and I
work until midnight to help make ends meet.
We are lucky to have work—it's hard for im-
migrants to find jobs here. Employers are
reluctant to hire us. They say our language
ability is poor, but I think the real reason is
prejudice rather than our difficulty with Japa-
nese. In order to help people like us, we are
creating a program that offers employment
opportunities for non-Japanese/immigrant
students. We will start by distributing surveys
to the shop owners, and we will also train
non-Japanese/immigrant youths to learn
Japanese customs, such as punctuality and
refraining from talking during work.



「まこと無料塾」
岡田治樹
Haruki Okada
小園井智之
Tomoyuki Osonoi

(治樹)僕は偏差値の低い高校に通ってました。親の財政が苦しいので塾に行けず、従って大学に進学できないクラスメートばかりでした。優秀でも経済的な理由で大学に行けないなんてこんなおかしきことがあってはいけないと僕は思います。大学に進学しないことのハンディキャップは大きいと思います。僕らは資金源のない子どもが学外でも勉強できるプログラムを始めます。具体的には、低所得者や移民の多い横浜の鶴見区にまず開塾し、僕ら大学生がボランティアで教えることから始めたいと思います。

(Haruki) When I was in high school, my family couldn't afford JUKU (college prep courses). Nor could my friends' families. As a result, our SAT scores were pretty low. Most of my friends failed to make it into college. They won't be able to benefit from the relationships and opportunities that college-educated people have—but why should the limited financial resources of one's parents cause young people to lose future opportunities? This isn't acceptable, and to address this problem, we're creating a JUKU in which poor kids can receive free tutoring services from volunteer college students.



「元気ッッチン」
松井鈴果
Suzuka Matsui
田中優理
Yuri Tanaka

(鈴果)昨年、農村を訪ね地元の高齢者に田植えを教えてもらいましたが、帰り際のおばあちゃんの言葉「ぜひ、又来てね。皆が来てくれると元気がでるよ」が、ずしんと心に響きました。この体験をもとに私たちは「孤立している農村の高齢者」と「農業体験に関心を持つ都市の若者」をつなげるサイトを創ることにしました。このサイトでは農家の方達の自己紹介と希望する交流の形(田植えの手伝い、稲刈りの手伝い等)を記し、若者が応えるという形をとります。また農村体験した後はサイトにレビューを書き応募する人への参考になるようにします。またサイト上では農作物の販売もできるようにします。各農家での農業経験者が書いた生のレビューが農作物の信頼を促すという効用を考えました。

(Suzuka) We visited a farming village last year and helped elderly farmers plant rice paddies. I will never forget what one farmer said when we were about to leave: "You gave us strength and energy! Come back again!" Her words inspired us to create a website to match "isolated elderly farmers" and "youth in big cities who are interested in working in farming villages." Our site will include youths' accounts of farming experiences, which will hopefully inspire other youths to join the program and promote the sales of the farm goods they produce.



「Study for Two」

石橋孝太郎
Koutaro Ishibashi
田中愛理
Eri Tanaka
内田優美
Yumi Uchida

(孝太郎)大学の教科書は値段がとても高い。奨学生にとってはなおさらのことだ。一般の本に関しては書籍界のイノベーションとしては、ブック・オフがあるが、マーケットが極めて小さく利益に繋がらない教科書に大手は関心を示さない。そこで先輩から無料で教科書を譲り受けるのが習わした。一方、途上国では勉強をしたくても教科書すら手に入らない子供たちが溢れている。寄付による中古教科書を販売するシステムを創りそこから得た利益を途上国の子供たちの奨学金に当てるとというのが、僕らのプログラムの目指すところだ。資金集めのもう一つの方法として、教科書の電子書籍化を検討している。

(Koutaro) College textbooks are very expensive, especially for scholarship students. The innovation of “BOOK-OFF” does not cover the textbook market because it is too small. On the other hand, children in developing countries have no access to textbooks. Our solution for this problem is to create a market for used college textbooks. We will use the money we raise to provide scholarships for poor children. We are also trying to develop digital text books as the means to raise the funds.

「中国人留学生の観光サイト」

曹枳心
Shakushin So
何玲玲
Rei-rei Ka



(枳心)私たちは3年前に日本に来ました。私たちアジア人留学生は物価の高い日本で学費と生活費を稼ぐためのアルバイトを探すことにいつも腐心しています。そこで考えたのが「中国人観光客に大阪のインサイダーとしての経験から知っている情報を提供する」と、「中国人留学生にガイドや通訳のアルバイトを提供する」のふたつの目的を充たすサイトを立ち上げることです。サイトにレストランの案内とメニューの中国語訳を載せることで料金を課してサステナブルな運営を目指します。

(Shakushin) I came to Japan from China three years ago. Last year, I was accepted by Kwansai Gakuin University, and I am currently studying in the School of Human Welfare Studies. For Asian students like me and my friend, Reirei, the cost of living in Japan is outrageously high. I work at a Chinese restaurant near my apartment in Osaka from 6 pm until 4 am every day to make ends meet. My innovation employs Chinese students to help Chinese tourists find Chinese-friendly restaurants and hotels in Japan. We also connect Chinese students with tourists as tour guides. In order to maintain the website, we will charge Chinese facilities for being listed on the site. Additionally, we will offer services of translating restaurants' menus into Chinese for our clients.



「大学クラス
紹介サイトを創る」

井下田愛奈
Ena Igeta
野中皓太
Kouta Nonaka

(愛奈) 私は高校2年生です。大学ではクラスの内容や教授の人となりなど良く解らないままクラスを履修して、入ってから

自分に合わないと思ってでも変更することができず4年間をムダに過ごしたということをよくの先輩から耳にしました。貴重な4年間をムダに過ごすなんてもったいないなと思いました。そこで考えたのが教授にインタビューをとりつけ授業の内容を伝えたり研究室の様子などを紹介するサイトを立ち上げることです。また同時に履修を決める前にクラスを傍聴できるシステムも創るつもりです。

(Ena) I am in my sophomore year of high school and am very excited about going to college. I have heard from my prep school instructors and other students that college professors all teach their classes differently. Students sign up for courses and only realize when it is too late that the course isn't what they expected. To help students navigate this situation, my friend, Kouta, and I will interview professors and post our results online. Furthermore, we would like to create a system that will offer students the opportunity to attend classes before registration deadlines so that they may ensure their enjoyment of college courses.



「日韓合同
子どもキャンプ」

仁科有理
Yuri Nishina
チームメイト募集中

(有理) 日本人と韓国人そして在日韓国人の間にはお互いの偏見と差別があります。13歳まで日本人として育ちその後自分が韓国系だと親に知ら

された私には、各々の気持ちが腑で解ります。偏見は相手のことを知らない無知から生まれるものだと考えます。お互いのことを知るのが偏見を取り除く出発点。それもなければ若いほど良い。ですから私は小学生対象のキャンプを計画することにしました。私と同世代の仲間をボランティアとして巻き込み一緒に企画、運営することによって、子供と同時に私の世代の若者の意識にも影響を与えるプログラムにしたいと思います。

(Yuri) Prejudice among Japanese, Koreans and Korean-Japanese is evident in Japan. I was brought up believing myself to be Japanese until my parents told me when I was thirteen that we are really of Korean descent. My unique upbringing helps me relate to the feelings of both groups. I strongly believe that prejudice is the product of ignorance, and that we can alleviate prejudice and discrimination by getting to know each other. I now dream of running a camp for Japanese and Korean elementary school students. By involving youths of my generation as volunteers, the program will hopefully serve the purpose of changing our generation's attitudes towards prejudice.

YOUTH VENTURERS OVERSEAS

海外のプログラム

GERMANY Launched 2006
ドイツ



Youth-without-Drugs

ベルリンに住む18歳の若者四人が、麻薬の吸い過ぎで命を落とした友達を悔やんで立ち上げたのが「ユース・ウィズアウト・ドラッグズ」だ。音楽を通して麻薬の恐ろしさを訴えるワークショップやコンサートの企画をしたり、麻薬に走らないように趣味を見つけるプレゼンテーションをしたりする。

Salah, Haidar, Mohammad and Enis—lost a good friend to drugs, they decided to do something to help other teenagers avoid the same fate. Their team, “Youth Without Drugs,” organizes drug prevention events including workshops with drug experts, concerts and alternative activities. In doing so, the boys believe in the power of “help from youth to youth” and they hope their work will help teenagers to stay away from drugs and encourage those who have taken drugs to stop.



Youth-4-All

2008年時点でドイツ人口の14%が移民で占められそのうち25%がトルコからやってきた人たちだ。ドイツ最大の移民であるトルコ系ドイツ人の若者のイメージ・チェンジを計るため、3人のティーンが立ち上げたのがユース-4-オールだ。彼女たちは、問題軽減の鍵は「学生」、「父兄」そして「教師」の3グループ間のコミュニケーションにあると見て、3者の協働のアドバイスやファシリテーターとしての役割を担う。



Integration of other cultures is a big challenge in the German capital Berlin, where in 2008 more than 14% of the residents are migrants or relatives of migrants. Of all migrants in the city, more than a quarter are of Turkish descent. “DeuKische Generation e.V.”* is an organization created by a group of German adolescents with Turkish heritage aimed at improving the image of young Turkish people in Germany. One of their projects, “Youth 4 All,” came about with the support of Youth Venture Germany. DeuKische’s three leaders, Lamia, Didem and Deniz, consider communication based on mutual understanding between students, parents and teachers a key to successful integration. They encourage different types of cooperation between these three stakeholders, offering them advice and serving as facilitators and role models.

*“DeuKisch” is derived from the words for “German” and “Turkish,” “deutsch” and “türkisch.”



U.S.A. Launched 1996
アメリカ

Turtle Talks



フロリダの公立小学校に通っていた頃、ザンダーはウミガメが絶滅状態にあることを知り、どうにかしなくちゃならないと考えた。そして、実際の行動に移したのが12歳の時だった。母親に縫ってもらったウミガメの縫いぐるみを来てウミガメの絶滅状況を伝えるプレゼンテーションを行った。思っても見なかった凄いい反響が返ってきた。そしてそれからの一年以内にコスタリカ、パナマ、トリニダード・トバゴからも講演に招かれ状況を精一杯伝えた。15歳のとき講演で伝え続けた内容を一冊の子供向けの本にまとめた。この本が引き金となり他のNPOのウミガメ救済活動に大きな影響を与えている。その後、やはり絶滅状態のアナホリガメについての本も上梓。これまでにザンダーの本は10万部刷られ世界中の子供たちに無料で配布されている。

At age 12, Zander began fighting to bring endangered sea turtles back from the brink of extinction. He created “Turtle Talks,” a workshop-based Venture to educate local Florida elementary school students about the turtle ecosystem and population conservation, much of which while dressed in a loggerhead costume. The workshops were so successful that within the course of a year, Zander performed for audiences in Costa Rica, Panama, and Trinidad. By the time he was 15, he translated the workshops into a “Turtle Talks” children’s book, which several conservation groups quickly incorporated into their outreach efforts. Zander followed this success with a new book about the endangered gopher tortoise. Over 100,000 copies of Zander’s books have been printed and are distributed to students around the world for free.

FRANCE Launched 2006
フランス



La Musique Sociale



自らロックを演奏するマキシムはバンドのマネージメント会社を立ち上げて、ロックからラップまで広範囲に及ぶ音楽を通して、社会をより良く変えたいというアイデアを行動に移した。ミュージシャンや音楽制作に関わる人々を啓蒙し、音楽に社会を変える要素を取り込むことをアドバイスし、リーダーシップをとる。この動きは近年世界中に広がりつつあるが、マキシムはその先頭を走っている。

Maxime decided to turn his passion for music into social action by forming his own band management company, Le Musique Sociale (Social Music). From rock bands to rap artists, Maxime finds performance venues, books studio time, and offers advice to artists, especially musicians, who use their craft to educate society on social issues. In a growing field, Maxime has positioned himself at the forefront of what is rapidly becoming a movement in and of itself.



iVote

INDIA Launched 2007
インド



インド、ムンバイの若者たちは政治に無関心だ。政治と自分の学生生活との接点を見いだせないでいる。ナターシャはそこに問題を見いだした。若者が自分たちの社会の将来に関心を持たなくてはならない、と考えたナターシャは、学生たちが政治の議論を身近なものとするようなシステムを創ろうと試みた。まず大学にキャンパスで選挙登録ができるようなシステムを創り、若者の政治への関心を煽る映画の上映や弁論大会などの企画を始めた。

Natasha's Venture, iVote, helps young people find their civic voice. Much of the Mumbai youth population is disillusioned by politics. They feel that corruption reigns and that youth interests are unrepresented. As a result, a large number of young people, particularly students, have removed themselves from the political dialogue. Yet Natasha believes that political awareness drives social progress, and her hopes have been bolstered by a recent influx of young Indian politicians. She launched iVote to turn political apathy into activism. Her Venture aims to increase voter registration among students by performing outreach at local campuses. iVote hosts a range of activities including film screenings and discussions, all of which are aimed at engaging young people in political dialogue of India.



Malabares Arte Circense

BRAZIL Launched 2006
ブラジル



モニク、タミレス、アナの3人は、サンパウロの貧困区に住む11歳から14歳の子供たちに曲芸を教えるワークショップを始めた。貧しく教育もまともに受けられない子供たちにとって曲芸は楽しいばかりか、運動にもなり、創造性も高めるという利点を持つ。立ち上げから3ヶ月間に開催したワークショップは40回。思った以上の反響を得て、3人はブラジル全国にプログラムを広める計画をしている。

Monique, Tamires, and Ana launched Malabares Arte Circense (Circus Juggling Arts) to engage the low-income youth population (ages 11 to 14) of São Paulo. Circus is a fun, positive medium that promotes cooperation, relaxation, and intense physical training, all of which are critical in adolescent development. The students of the Malabares juggling and circus workshops not only develop physical skills and coordination, they also gain self-confidence and an outlet for creativity and concentration. In its first three months of operation, Malabares offered over 40 workshops. The response has been overwhelmingly successful. Monique, Tamires, and Ana hope that soon they will be able to reach out to youth all across Brazil.

PILOT PROGRAM MAY, JUNE and JULY 2010 PRESENTERS



プレゼンテーション参加者

飯沼里津子 Ritsuko Iinuma	アリーザ クラウディオ Arizza Claudio	共田真良馨 Marika Tomoda
井下田愛奈 Ena Igeta	粟原さあや Saaya Kurihara	仲本真理子 Mariko Nakamoto
石田菜奈子 Nanako Ishida	古賀優希穂 Yukiho Koga	永田啓人 Keito Nagata
石橋孝太郎 Koutaro Ishibashi	小林育子 Ikuko Kobayashi	仁科有理 Yuri Nishina
伊藤綾芽 Ayame Ito	小林美樹 Miki Kobayashi	袴田麻衣 Mai Hakamada
伊藤元輝 Genki Ito	近藤篤旨 Atsushi Kondo	長谷川景子 Keiko Hasegawa
伊藤瑞姫 Mizuki Ito	齋藤菜美 Nami Saito	埴美咲 Misaki Hanawa
大池舞 Mai Oike	佐藤仁美 Hitomi Sato	濱崎令央果 Reoka Hamasaki
岡田治樹 Haruki Okada	佐藤ゆき奈 Yukina Sato	日詰ゆか Yuka Hizume
小園井智之 Tomoyuki Osonoi	ベルナルド サンティアゴ Bernard Santiago	平野翔大 Shodai Hirano
荻原佳希 Yoshiki Ogiwara	柴田健 Ken Shibata	廣川那佳 Naka Hirokawa
大竹麻理耶 Mariya Otake	清水秀樹 Hideki Shimizu	堀越千晴 Chiharu Horikoshi
織田隆 Takashi Oda	丁海賛 Haechan Jeong	前田裕人 Yuto Maeda
オトゴンバートル Otgonbaatar	鈴木超 Koeru Suzuki	槇島智美 Tomomi Makijima
ニャムチリン Nyamtseren	瀬谷芽以 Mei Seya	松井航哉 Koya Matsui
ベネディクト Benedict	曹积心 Shakushin So	松井鈴果 Suzuka Matsui
オライレス Olayres	高橋柚乃 Yuno Takahashi	村山喬子 Kyoko Matsue
大和田隆史 Takashi Owada	高松千尋 Chihiro Takamatsu	松本めぐみ Megumi Matsumoto
何玲玲 Reirei Ka	瀧本悠貴 Yuki Takimoto	御手洗誠 Makoto Mitarai
笠井美穂 Miho Kasai	田中愛理 Eri Tanaka	村上詩織 Shiori Murakami
梶野凌平 Ryohei Kajino	田中香穂 Kaho Tanaka	山田綾愛 Ayame Murayama
鹿島由梨菜 Yurina Kashima	田中優理 Yuri Tanaka	森谷有里恵 Yurie Moritani
カルシン Louise	田中亮 Ryo Tanaka	山口乃絵瑠 Noeru Yamaguchi
エロイス ジョン John Calusin	ムンフバト Munkhbat	安田美和 Miwa Yasuda
木ノ内里奈 Yoko Kitajima	ダイリーマー Dairimaa	山田貴大 Takahiro Yamada
北島陽子 Rina Kinouchi	千代野薫 Kaoru Chiyono	結城知憲法 Tomonori Yuki
金亨 岳 Hyongchol Kim	アルベルト ジョセフ Albert Joseph	横山美奈 Mina Yokoyama
木村良一郎 Ryoichiro Kimura	ヒラリオ ディアズ Hilario Diaz	渡邊伸朗 Nobuaki Watanabe

PILOT PROGRAM MAY, JUNE and JULY 2010

ASHOKA
ユースベンチャー

PANELISTS

パネリスト

有馬充美	Atsumi Arima
パート ウィートジェンズ	Bart Weetjens
岡田豊	Yutaka Okada
小笠原有輝子	Yukiko Ogasawara
金田修	Osamu Kaneda
片山ます江	Masue Katayama
川崎達生	Tatsuo Kawasaki
小暮真久	Masahisa Kogure
佐藤大	Dai Sato
澤由紀子	Yukiko Sawa
ジョン ジェイ	John Jay
渋澤健	Ken Shibusawa
外池ジャーナリ	Janari Tonoike
西山浩平	Kohei Nishiyama
原田英治	Eiji Harada
林竜也	Tatsuya Hayashi
三田真美	Mami Mita
御手洗瑞子	Tamako Mitarai
柳瀬博一	Hiroichi Yanase
クリストファー ラフルアー	Christopher Lafleur

Photographs: Miyuki Inoue
Text + Art Direction: Nana Watanabe
Graphic Design: Tamako Okamura

PILOT PREP TEAM

パイロット準備チーム

岡美織	Miori Oka YV Program Manager
後藤宗明	Muneaki Goto YV Program Director
渡邊奈々	Nana Watanabe Ashoka Senior Advisor

VOLUNTEERS

ボランティア

池野章	Sho Ikeno
伊藤元輝	Genki Ito
ジョン ギドリ	John Guidry
熊丸梨奈	Lina Kumamaru
小池由樹	Yuki Koike
高畑光生	Mitsuki Takahata
辰巳真理子	Mariko Tatsumi
田中亮	Ryo Tanaka
千葉光一	Kouichi Chiba
成松ロビン	Robin Narimatsu
丸野遥香	Haruka Maruno

ADVISORS

アドバイザー

金子郁容	Ikuyo Kaneko
宮城治男	Haruo Miyagi



Ashoka's
**youth
venture**
DREAM IT. DO IT.

www.youthventure.org/japan